

厚生文教常任委員会

- 委員長 飛賀 貴夫
- 副委員長 犬塚 齊
- 委員 松下 弘毅
- 委員 藤木 匠
- 委員 南里 正秀
- 委員 古賀ひろ子

健康づくり課

平成29年健（検）診及び結果説明会の実施状況

前期健診が5月から18日間の日程で始まり、6会場ともに受診者数は前年度を上回っている。

後期の健診日程も広報等で周知し、勧奨に努める。

健康診査の対象者は昨年と同様、16歳から39歳までの健診機会のない方、40歳から74歳までの国保加入者（特定健診）、協会けんぽの被扶養者、75歳以上の方。

健康診査受診の1ヵ月後に



健康セミナー（出前講座）

全受診者に対して、健診実施場所において、健康診査の結果説明及び保健指導を実施する。

健康セミナーについては、校区保健師が担当し、各地域コミュニティや自治会、あらゆる機会を通し実施している。

セミナーは健康診査から見える宇美町の健康課題、健診を受ける必要性についてなどが主な内容である。

子育て支援課

新設保育所の整備状況

平成29年度において保育所の整備を行うことで協議を進めている。

①認可保育所 定員50人
場所 四王寺坂1丁目
施設名

（仮）四王寺坂ひかり保育園
開所予定 平成30年4月1日
②認可保育所 定員60名
場所 貴船2丁目
施設名

開所予定 平成30年4月1日
③小規模保育施設 定員19名
場所 貴船2丁目
施設名

開所予定 平成30年4月1日
施設名 未定

問

待機児童解消加速化プランを利用して保育所等が、できることは、大いに歓迎するが、保育士の取り合いにならないか。

答

前もって確保できるようにお願いしている。

1年間をかけ募集を行い、保育士の確保に努めてもらう。

学校教育課

平成29年度教育振興基本計画策定

一人一人の豊かな心を育み、よりよい人間関係をつくるため、めざす子どもの姿「う・み・し・ぐ・さ」の作成・配布を行い、小中学校での一貫した指導を推進する。

特に、本年度は「黙働」や「己拭き」の徹底を図る。



あいさつする姿

スーパー食育スクール事業の報告

平成28年度に文部科学省の指定を受け、「食生活を改善し、進んで健康な体づくりに取り組む子どもの育成」を取組テーマとして宇美小学校で実践した。

29年度は、スーパー食育を継承する事業として「つながる食育推進事業」が採択され、継続して取り組んでいく。

問

宇美商業高校との関わりは。

答

高校生が作成した献立を、宇美小学校の給食で提供した。

また、高校生による給食訪問サポートを実施した。



うみしぐさ

議会広報常任委員会視察研修報告

広島県熊野町議会へ

議会だより編集体制及び町制施行100周年記念事業準備体制について調査研究するための視察

平成29年5月16日視察
熊野町は、広島市、呉市、東広島市のほぼ中央部に位置し、周囲を500m級の山々に囲まれた盆地。

昭和40年代前半は人口1万人程度、県営熊野団地の造成を契機に人口が急増。

昭和50年代後半以降は、2万5千人程度で推移。平成12年の2万6,500人をピークに減少に転じている。

産業は、180年あまりの歴史と伝統を誇る伝統的工芸品「熊野筆」があり、毛筆、画筆、化粧筆の国内生産の多くを占める「筆の都」として発展。

「筆の里工房」を拠点に筆文化の創造を町内外に発信。



伝統工芸士による作業風景

質問事項

- 議会広報編集について
- ① 「議会広報編集調査票」
- ② 住民参画
- ③ 広聴・町民との意見交換
- ④ 町民を対象の委嘱制度等

研修事項

- 「くまの議会だより」の編集について
- ◆ 多くの住民が、手にとって読みたくなる紙面づくり
- ◆ 「伝える」から「伝わる」



100周年記念事業ロゴマーク



熊野町議会と意見交換

紙面づくり

◆ 小学校高学年の子どもが読んでもわかる紙面づくり

質問事項

- 町制施行100周年事業
- ① 基本構想（方針）及び事業計画（概要）
- ② 総事業費（概算）
- ③ 組織体制
- ④ 記念誌作成業務の予算
- ⑤ 町民への周知
- ⑥ 町民や各種団体参加の協議会や実行委員会等

研修事項

- 町制施行100周年事業（平成30年10月1日）
- ◆ これまでの周年記念事業の内容を基本としている。
- ◆ 100周年という節目にふさわしい事業を構築する。
- ・ 次世代へ継承・住民参画・プロジェクト事業
- ・ 庁内職員からプロジェクトチームメンバーを募集し17名を任命、32事業から8事業を選定し「伝える」「つなぐ」「広げる」3班の班編成。

視察を終えて

議会だより編集体制及び町制施行100周年記念事業準備体制の取り組みの調査・研究にあたり、熊野町の地勢や伝統芸術文化を活かし、産業振興の発展で、雇用を創出、「筆の里」を世界に向け発信している。

① 「くまの議会だより第100号発行」記念企画において、議会広報委員の呼びかけで中学生と議員によるワールドカフェという手法で意見交換会を開催。

② 「ふるさとの山を歩く」シリーズ企画を議会広報委員が取材。

③ 議会広報委員の任期は、一期2年を原則としているなど。

町の活性の取組、宇美町議会に何が必要か、大いに学ぶことができ、今後のまちづくりの課題や議会改革に向け取り組んでいくことを報告します。